

ゴッホのひまわり、フィラデルフィア美術館にて

昨年9月、ボストンの旧友を訪ねました。家族4人、他1名、計5人で成田からの直行便で到着。28年ぶりの美しき古都ボストンは、ハーバード大学やマサチューセッツ工科大学といった学術都市としても有名な、整備された、ちょっと上品でコンパクトなアメリカらしい大都市でした。旧友は **Harvard Medical School** のベス・イスラエル病院で研究職に着いており、3人の子供たちもほぼ1人前になっています。長男は日米両国での弁護士資格取得を目指し、修行中です。2日目の市内街歩き（フリーダムトレイル）後、旧友の家族らと共に、評判のローズワーフシーグリルで **dinner**、生オイスターはレモン汁と大好きなカクテルソースで堪能しました。楽しい時間でしたが、御当地ビール、サミュエルアダムズにワイン、お気に入りのアメリカンスタイルのマティーニにギムレットと不覚にもすっかり酔っぱらってしまいました。翌朝、私は起きだせず、妻と娘でダックツアー、水陸両用車での市内観光でした。その後、合流し、旧友のラボ見学後、ボストン美術館（**Boston Museum** とは言わず、現地では **Museum of Fine Arts** と言わないと通じない）へ、夜はカレッジフットボール、**Boston College** 対 **Florida State** を生で観戦、全米中継されていたせいもあって大迫力でした。アルコールなしのスタジアムでしたが、ハーフタイムにはマーチングバンドが観客席に入ってくるなど、充分、楽しめました。

翌日は超早起きで、ボストン南駅よりアムトラックでニューヨークを通過してフィラデルフィアへ、この時間帯はエクスプレスがなく、**Regional**（各駅停車ではない）のビジネスクラスで行きました。たっぷり5時間かけてフィラデルフィア32番通り駅で下車、お勧めされていた **Big Phil**（長いパンに柔らかな肉がはさんであり、ほっかほっかで暖かく、食べやすい）の昼食後、フィラデルフィア美術館へ。館内散策し、ついに「ゴッホのひまわり」に到達しました。独特の重厚で滑らかな筆致を座ってゆっくり鑑賞しました。帰りもたっぷり5時間の鉄道の旅、深夜のホテル着となりました。妻がどうしてもゴッホのひまわりを見たいとのことでこの強行軍を企画することになりました。海外で公開されているゴッホのひまわりの内、ミュンヘン（ノイエ・ピナコテーク）とアムステルダム（ヴァン・ゴッホ美術館）のは既に拝見する機会があり、残るはロンドンだけになりました。その後もニューベリー通りやチャールズ通りを散策、買い物を楽しみ、最後の夜は、私だけまだだった名物のクラムチャウダーにありつくことができました。結構、贅沢三昧のボストン旅行でした。